

武漢事務所週刊ニュース (2016. 8. 20-2016. 8. 26)

2016年8月21日

世界最長のガラス橋が武漢で設計される

中鉄大橋院が設計した張家界大峽谷ガラス橋は昨日、営業を開始し、初日に8000人の観光客が訪れた。

この橋は峽谷を跨ぎ、長さ、高さ共に世界一で、観光地での人の通行、観光、バンジージャンプ、ロープウェイ、舞台の機能も持っている。橋面はガラスでできており、最大800人が橋を渡ることができる。

この橋の設計者、中鉄大橋院副総エンジニアの万田保氏によると、設計にあたり建築材料の選択、ガラス技術、滑り止め、耐圧、耐風、凍結防止などの多くの技術的困難を克服し、多くの項目で世界一となった。

観光客の安全を守るため、試運転期間中観光地は前日予約制をとり、一日の入場数を8000人に制限する。



ガラスのかけ橋

2016年8月23日

4年後、武漢でロケット50基、衛星140個の生産が可能に

武漢国家宇宙飛行産業基地初の企業誘致項目-ロケット会社がすでに商工業の登録及び発射試験、各項目の実行可能性調査報告を終え、来年操業予定である。4年後、当該基地で年にロケット50基、衛星140個の生産が可能となる。

昨年10月、中国宇宙飛行科学工業グループは、武漢新洲区の陽邏経済開発区古龍産業パークに、武漢宇宙飛行産業基地を作った。総投資額は1500億元であった。当該基地は国家級ハイテク産業基地として建設される。

2020年までに50基の推進ロケットの生産能力、及び100キロ超のビジネス用衛星を40個、100キロ以下のビジネス用衛星100個の製造能力を有し、年間生産高300億元を目指す。